



# 平成27年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社IGポート  
コード番号 3791 URL <http://www.igport.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石川光久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当執行役員 (氏名) 中野広之

TEL 0422-53-0257

四半期報告書提出予定日 平成27年4月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成27年5月期第3四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成27年2月28日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第3四半期	6,333	19.0	262	△54.7	279	△51.5	△79	—
26年5月期第3四半期	5,324	28.5	579	—	576	—	393	—

(注) 包括利益 27年5月期第3四半期 △65百万円 (—%) 26年5月期第3四半期 284百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第3四半期	△16.83	—
26年5月期第3四半期	82.28	80.85

(注) 当社は、平成25年12月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行なわれたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年5月期第3四半期	7,869	4,389	55.6
26年5月期	7,766	4,389	56.3

(参考) 自己資本 27年5月期第3四半期 4,373百万円 26年5月期 4,375百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	0.00	—	5.00	5.00
27年5月期	—	0.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,208	17.5	459	△29.3	479	△24.5	321	△30.2	67.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年5月期3Q	5,055,400 株	26年5月期	4,965,400 株
② 期末自己株式数	27年5月期3Q	320,400 株	26年5月期	320,400 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年5月期3Q	4,716,973 株	26年5月期3Q	4,781,419 株

- (注) 1 当社は、平成25年12月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。上記の株式数は、当該株式分割が前連結会計年度の期首に行なわれたと仮定して算定しております。
- 2 当社は、前期より「株式給付信託(J-ESOP)」を導入しております。J-ESOP信託口が所有する当社株式200,000株は、自己株式に含めて記載しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により発行済株式数が90,000株増加しております。業績予想における1株当たり当期純利益は、当該増加株式数を反映して算出しております。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府や日銀による経済・金融政策により円安が進行し、輸出産業を中心に企業業績は回復傾向にあります。個人消費については、消費増税や円安による輸入物価の上昇で、賃金の伸びが物価上昇のペースに追いつかず、緩やかな回復となっています。一方、米国では経済回復が続き雇用は改善し、欧州では経済の低成長が続いていますが、ギリシャでの債務問題が再燃し、新興国では経済成長の鈍化、地政学リスク等、先行きに懸念材料を残す状況にあります。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,333,133千円（前年同期比19.0%増）、経常利益は279,150千円（前年同期比51.5%減）、特別損失に映像マスターの減損損失を192,312千円計上したことにより、四半期純損失は79,368千円（前年同期は393,434千円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 映像制作事業

映像制作事業におきましては、劇場用アニメーション「劇場版 PSYCHO-PASS サイコパス」「宇宙戦艦ヤマト 2199 星巡る方舟」等、テレビ用アニメーション「黒子のバスケ 第3期」「蒼穹のファフナー EXODUS」「純潔の MARIA」「ローリング☆ガールズ」等、ビデオ用アニメーション「新テニスの王子様 OVA vs Genius10」等、その他ゲーム用・CM用のアニメーションを制作いたしました。

また、一部の映像制作において、制作期間の長期化や海外制作費の増加とこれに付随する間接費の増加等により、増収となるもののセグメント損失となりました。

以上により、当事業の売上高は4,441,686千円（前年同期比41.2%増）、セグメント損失は162,804千円（前年同期は234,432千円のセグメント利益）となりました。

#### ② 出版事業

出版事業におきましては、新刊は、月刊誌「コミックガーデン」、コミックス「魔法使いの嫁 2巻」「煉獄に笑う 2巻」「PSYCHO-PASSサイコパス監視官咬嚼慎也 1巻」「あまんちゅ! 9巻」等、定期月刊誌10点並びに新刊コミックス83点を刊行しました。

テレビアニメ化に引き続き、舞台化された「曇天に笑う」の既刊コミックス（全6巻、外伝）は累計100万部を超え、また「魔法使いの嫁」は1、2巻と合わせて累計80万部を超えるヒット作となりました。

以上により、当事業の売上高は1,031,986千円（前年同期比28.2%増）、セグメント利益は151,402千円（前年同期は12,041千円のセグメント損失）となりました。

#### ③ 著作権事業

著作権事業におきましては、「進撃の巨人」「黒子のバスケ シリーズ」「攻殻機動隊ARISE 及び SAC シリーズ」「宇宙戦艦ヤマト2199」「サイコパス」「ハイキュー!!」等の二次利用による収益分配を計上しました。

前年同期で爆発的にヒットしました「進撃の巨人」「宇宙戦艦ヤマト2199」の著作権収入も落ち着き、それを上回るヒット作品の著作権収入がなかったことにより減収減益となりました。

以上により、当事業の売上高は627,595千円（前年同期比46.2%減）、セグメント利益は326,799千円（前年同期比24.0%減）となりました。

#### ④ その他

その他の事業につきましては、雑誌のイラストやキャラクターの商品化、ゲームや iPhone/iPod Touch 向けアプリ等により当事業の売上高は231,864千円（前年同期比11.6%増）となり、セグメント利益は14,941千円（前年同期比30.2%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ102,110千円増加し7,869,027千円となりました。主な要因は現金及び預金が91,915千円、受取手形及び売掛金が67,660千円増加し、一方、仕掛品が413,094円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ101,796千円増加し3,479,133千円となりました。主な要因は未払金が175,836千円、前受金が111,103千円増加し、一方、未払法人税等が211,099千円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ313千円増加し4,389,894千円となりました。主な要因はストック・オプションの行使により、資本金及び資本剰余金が45,000千円ずつ増加し、一方、四半期純損失の計上により利益剰余金が103,593千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点におきまして、平成26年7月11日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

本日公表の「特別損失の計上に関するお知らせ」にあります減損損失の通期連結業績予想に与える影響と他の要素を含め現在精査中であり、連結業績予想の修正が必要となった場合速やかに開示致します。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、次のような連結範囲の変更があります。

① 連結範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、009 RE:CYBORG 製作委員会は重要性が乏しくなったため、連結の範囲から除外しております。また、第2四半期連結会計期間より、平成26年10月1日付で設立しました株式会社シグナル・エムディを連結の範囲に含めております。

② 持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、ハル 製作委員会1社は、四半期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。また、当第3四半期連結会計期間より、新たに出資した宇宙戦艦ヤマト2199新劇場版 製作委員会及び、蒼穹のファフナー EXODUS 製作委員会の2社を持分法の適用範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,427,134	2,519,049
受取手形及び売掛金	1,090,639	1,158,299
商品及び製品	113,339	146,710
仕掛品	1,483,989	1,070,894
貯蔵品	7,964	8,302
前渡金	21,589	65,742
繰延税金資産	99,708	69,108
その他	107,313	376,052
貸倒引当金	△26,552	△26,940
流動資産合計	5,325,126	5,387,220
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	707,106	682,902
土地	829,579	829,579
映像マスター(純額)	430,064	489,824
その他(純額)	48,035	81,149
有形固定資産合計	2,014,786	2,083,455
<b>無形固定資産</b>		
のれん	60,578	47,597
その他	13,406	11,754
無形固定資産合計	73,984	59,351
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	156,106	111,996
その他	234,124	264,492
貸倒引当金	△37,210	△37,488
投資その他の資産合計	353,019	339,000
固定資産合計	2,441,790	2,481,807
資産合計	7,766,917	7,869,027

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	616,784	647,876
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	39,996	39,996
未払金	204,946	380,783
未払法人税等	219,372	8,272
前受金	1,331,350	1,442,454
賞与引当金	—	35,567
役員賞与引当金	10,564	3,132
返品調整引当金	61,663	52,863
受注損失引当金	33,809	25,127
その他	318,062	301,729
流動負債合計	3,136,549	3,237,802
固定負債		
長期借入金	179,188	149,191
退職給付に係る負債	37,507	36,730
その他	24,092	55,409
固定負債合計	240,787	241,330
負債合計	3,377,336	3,479,133
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	736,500	781,500
資本剰余金	1,877,669	1,922,669
利益剰余金	2,188,835	2,085,242
自己株式	△420,870	△420,870
株主資本合計	4,382,134	4,368,541
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△6,437	4,962
その他の包括利益累計額合計	△6,437	4,962
少数株主持分	13,883	16,390
純資産合計	4,389,580	4,389,894
負債純資産合計	7,766,917	7,869,027

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成27年2月28日)
売上高	5,324,048	6,333,133
売上原価	4,203,558	5,435,608
売上総利益	1,120,489	897,525
返品調整引当金戻入額	10,736	8,800
差引売上総利益	1,131,226	906,325
販売費及び一般管理費	552,209	644,244
営業利益	579,017	262,081
営業外収益		
受取利息	1,331	1,678
デリバティブ評価益	—	4,730
投資有価証券償還益	—	1,160
受取賃貸料	25,824	35,129
保険解約返戻金	—	5,152
その他	3,470	3,512
営業外収益合計	30,626	51,362
営業外費用		
支払利息	3,821	3,182
為替差損	2,237	3,407
投資有価証券評価損	5,870	—
賃貸収入原価	19,233	26,833
その他	2,430	869
営業外費用合計	33,593	34,293
経常利益	576,050	279,150
特別損失		
減損損失	7,385	192,312
特別損失合計	7,385	192,312
税金等調整前四半期純利益	568,664	86,837
法人税、住民税及び事業税	268,846	112,838
法人税等調整額	△23,809	50,860
法人税等合計	245,037	163,699
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	323,627	△76,861
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△69,807	2,507
四半期純利益又は四半期純損失(△)	393,434	△79,368

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	323,627	△76,861
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△261	—
為替換算調整勘定	△38,427	11,400
その他の包括利益合計	△38,688	11,400
四半期包括利益	284,939	△65,461
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	354,746	△67,968
少数株主に係る四半期包括利益	△69,807	2,507

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成26年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,144,962	804,898	1,166,337	5,116,197	207,850	5,324,048
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,144,962	804,898	1,166,337	5,116,197	207,850	5,324,048
セグメント利益又はセグメント損失(△)	234,432	△12,041	429,838	652,229	11,479	663,708

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	652,229
「その他」の区分の利益	11,479
のれんの償却額	△20,023
全社費用(注)	△64,667
四半期連結損益計算書の営業利益	579,017

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成26年6月1日至平成27年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作 事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,441,686	1,031,986	627,595	6,101,269	231,864	6,333,133
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,441,686	1,031,986	627,595	6,101,269	231,864	6,333,133
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△162,804	151,402	326,799	315,397	14,941	330,338

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	315,397
「その他」の区分の利益	14,941
のれんの償却額	△12,981
全社費用(注)	△55,276
四半期連結損益計算書の営業利益	262,081

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産にかかる重要な減損損失)

「著作権事業」セグメントにおいて、映像マスターの回収可能価額の低下に伴う減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては192,312千円であります。